

## 平成23年度 第3回木更津市史編集委員会 会議録

1. 会議名 平成23年度 第3回木更津市史編集委員会
2. 開催日時 平成23年12月21日(木) 午後1時30分～5時00分
3. 開催場所 木更津市民総合福祉会館(2階) 第2会議室
4. 出席者 市史編集委員会委員 出席9名  
金子 馨委員、橘田 昭雄委員、梶山 林継委員、實形 裕介委員、藤平 量郎委員、  
野中 徹委員、三浦 茂一委員、須田 昭平委員、鹿間 和久委員  
教育委員会事務局7名  
初谷教育長、石井教育部長、北原教育部次長、本多文化課長、浅野主幹、中能主査、  
時山事務員
5. 議題及び公開又は非公開の別  
議題1 調査研究等の進捗状況について(公開)  
議題2 その他  
(非公開の理由)
6. 傍聴人 なし。

事務局(浅野主幹)  ただ今より、第3回木更津市史編集委員会会議を開会いたします。  
  本日の市史編集委員会は、高崎委員から都合により欠席のご連絡がありましたのでご報告します。会議につきましては、附属機関設置条例第6条第2項の規定により委員の半数以上の出席により成立しております。  
  また、本日の会議は公開で行い、会議録の作成のため、録音をさせていただきますので併せてご了解願います。  
  それでは、はじめに初谷教育長よりご挨拶を申し上げます。

初谷教育長  (初谷教育長挨拶)

事務局(浅野主幹)  次に、橘田委員長よりご挨拶をお願いいたします。

橘田委員長  (橘田委員長挨拶)

事務局(浅野主幹)  ありがとうございました。では、これから議事に入らせていただきたいと思います。議長は、委員長をお願いする規定となっておりますので、橘田委員長に議長をお願い致します。

橘田委員長

それでは、議長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。  
では、議事に入らせていただきます。本日は、「(仮称) 木更津のあゆみ」の内容検討についてということで、事前に事務局から、原稿案が配布されて、みなさん検討いただけたと思われしますので、順次、忌憚のないご意見を願います。

それでは、自然班から話し合っていきます。

藤平委員

まず、自然班は概観で総括してみました。木更津市は原始・古代のとき、脚光を浴びました。現在の黄金時代にあたる気がします。

必然性を考えますと、木更津市の大地にあったのではないかと思います。木更津市の馬来田あたりの山は非常に砂に富んでいるのです。もっと奥になりますと砂が大変目立ちます。馬来田からの砂が流されて木更津の大地を作ったということです。その先に干潟を作りました。もう1つ肝心なのは、泉が湧いているところです。非常に流水に富んでいます。砂と泥がセットで適当なところで流水になります。また、海に近いので、木更津の大地は稲作に適しているのではないかと思います。なので、多くの人が住み始め、集落となり、支配者も現れました。

また、江戸時代に栄えた中核都市です。植物もそうですが、いろんな動物も住みついているようでもあります。それから、干潟が姿を残しているヨシ原がありまして、単なるヨシ原ではなく、間に水路が走っています。潮が満ちてくると水路に潮が入ってきます。そういうような状況が大昔からあったのです。かつて地球上に木更津だけしかないのではないかと考えてましたが、調査が進んでくると他にも見つかったので、木更津だけとは言えなくなりました。しかし、大変貴重です。

それからハゼも大変貴重です。環境省の絶滅保護種です。エゴハゼが見つかったときは大騒ぎになりました。このように木更津の自然は大変貴重な動植物が残っています。以上のことを自然の章では述べました。

橘田委員長

ありがとうございます。新しい写真もたくさん撮っていただいて、それぞれ藤平先生がおっしゃるようなことを重視しながら、木更津の自然の姿を書いたわけですが、ご意見があればどうぞ。

須田委員

木更津の生物の9頁、生物の移り変わりの中にトキのことがありますが、最後のトキが昭和28年に五井町のはす田に来ているので、当時市内のはす田や水田でもトキが見られたものと思う、という推測をここで記載されるのはどうなのかと思います。

須田委員

また、昭和2年発行の君津郡誌と、「また、トキも『君津郡誌』に記載されている」の君津郡誌は、時間の差があるのではないですか？  
この2点が疑問に思ったところです。

事務局（浅野主幹）

トキの話についてですが、君津郡誌では「動物」や「昆虫」というように大きく項目が分かれています。「シカやサルはほとんどその影をみない」の部分は動物のところと、「また、トキも『君津郡誌』に記載されている」の部分は鳥類のところと載っております。「今主に見られる鳥類は」という書き出しで、また細かな分類があり、その中にトキが挙げられております。なので、昭和2年発行当時はトキは一般的に見られたと君津郡誌では書かれています。昭和28年五井のはす田にトキが見られたというのは別件の報告です。

梶山委員

戦後にもトキはいたということですが、この書き方だと誤解を受けますね。別の話になっているので、うまく分けて書かないといけませんね。

事務局（浅野主幹）

昭和2年にはトキは一般的な鳥だと書いております。昭和28年には五井町まで来ているので、近い木更津にも着いていただろうと推測していますが、確認されたものではありません。

須田委員

全体に関わることなのですが、推測を記載するのはいかがでしょうか。

藤平委員

トキが一般的に存在していたことがあったという記載をしたほうが良いですね。

須田委員

トキが一般的にいたことが前段に説明されていれば、木更津にも当然いたという推測が出来ます。

藤平委員

実は木更津高校にトキの標本があるんですよ。今もあるはずですよ。

初谷教育長

木更津のトキなのではないですか。

藤平委員

いいえ、袖ヶ浦のトキです。

橘田委員長

トキが君津郡誌に書かれた昭和2年頃には木更津にもいたということですね。だから太平洋側の最後のトキは、戦後の昭和28年、はす田に来ていたというところで止めておくほうが良いですね。五井が近いからこちらにも来ていたという予測を立てるのは良くないですね。

事務局（浅野主幹） はす田にトキが来ていたのであれば、取り上げる必要はないと思います。趣旨は、市内の水田やはす田でトキが見られたというように推測しても良いという判断があつて、このような文章になっているかと思います。ですから、トキが見られたと思う推測が適当でないというのであれば、この文章は不要かと思います。

梶山委員 1段目に「その頃市内でも象がばっこしていたかもしれない。」というものがあるので、もし推測を書くならば、全体の書き方を誤解のないようにしなくてはならないと思います。昭和2年段階では、当たり前前にトキが存在した記録があつたというような書き方ならば良いと思います。それならその頃に木更津にもいたのではないかと言えるのではないかと思います。トキの推測を消すとすると、他も引っ掛かってきます。字数が限定されているので、上手く作らないといけません。

事務局（浅野主幹） 今のお話を執筆者の方にお伝えし、検討をお願いしたいと思います。

梶山委員 最後の目撃情報の確実な裏づけを取る作業はしておいたほうが良いと思います。トキの最後の目撃が五井で終わり、はす田の推測をするから木更津と離れてしまうので、生きている人に尋ねる等裏づけを取るのが良いですね。

橘田委員長 五井で生きていたというのはどのような情報があるのですか。

梶山委員 昭和28年となると、町史からの情報かもしれないですね。確認する必要がありますね。いずれにしても、五井の話があつて、木更津もという表現は変えたほうが良いですね。

須田委員 「それ以降、次第にテン、サル、イノシシなどが減少していった」というところと、昭和2年発行の君津郡誌には「シカやサルはほとんどその影をみない。」というところで、サルが重なっていますが、これは、昭和28年以降減少していったことによろしいですか。

藤平委員 たとえば、イノシシは昭和26年から兵士に射殺されていたという話がありますが、復活し、最近ではイノブタではないかという説があります。

須田委員 だぶっているのはサルで、さきほどの2つの文章は相反すると思います。

- 事務局（浅野主幹） 文脈としては、「それ以降」のそれは、君津郡誌の昭和2年を指します。昭和2年以降減少していくが、保護されたこともあって増えていくというお話でございます。
- 須田委員 昭和2年、昭和28年と記載されているので時間的に引っかかります。
- 橘田委員長 ほとんど見ないと書いてますから、全くないのだろうと思ってしまいますね。実際にはずっとサルはいたのですよね。
- 事務局（浅野主幹） その辺りを執筆者の方に考えて頂きます。お話の内容をお伝えして誤解のないように書いて頂きます。
- 梶山委員 浅野さん、「またトキも」の部分と、「はす田で～見られたものと思う」の部分は年号が書かれていますが、トキの部分は一番最後に持っていくほうが良いと思います。「なお、トキは君津郡誌のときは一般に見られた鳥であるが、現在は絶滅している」というように後ろに持っていけば、サルやイノシシ、年号もつながりますから。
- 橘田委員長 では、「またトキも」から「はす田で～見られたものと思う」を一番最後に持ってくるということですね。
- 事務局（浅野主幹） 執筆者の方に伝えておきます。
- 實形委員 自然以外の扉は白い形が入っていますが、民俗だと扉をどう入れるかが問題だと思います。民俗は見開きで概説が入っていますが、自然は単独1頁で扉のところに入っています。見開きで導入にするのか、自然だけ違うのか検討が必要です。また、自然は最後にトピックが入る形になるので偶数頁の原則が崩れているのでどうするのが課題になります。
- 橘田委員長 浅野さん、原始古代の概観はどうしましたか。
- 事務局（浅野主幹） 原稿は頂いておりますが、抜けています。計画通り見開きで概説が入りません。3章以下も同様です。自然編だけ概説の部分が元々なかったのですが、概説がないと導入が難しいだろうという話もございましたので、自然の入口のところに少量だけ入れてみました。トピックスと概観を合わせて見開き2頁に作り直すことも考えています。

- 實形委員 毎回扉を作ると裏白を作らなければならないですね。要するに扉を入れるか入れないかが問題です。白紙頁が入らないのが原則です。カラー頁にしますので各章で違う色になりますよね。あえて扉がなくても始めの概説があるからその章の始まりがわかります。扉を作ろうとすると白紙頁が増えてしまいます。
- 橘田委員長 白紙頁は作らないほうが良いです。
- 實形委員 ずっと見開き原則ならば扉は必要ないです。自然が偶数で終わっていれば、ずっとつながっていきますね。フルカラーですので章ごとに色分けが付きまします。基本的に市史のコンセプトは、つなげて読むのではなく、おもしろいところだけ読むことができます。各章ごとの色分けができていて、各章で話が完結してますから、興味のある時代だけを開いて読むことができます。
- 梶山委員 基本的なことですから、中扉入れるなら入れると決めたほうが良いです。全く白というのはおかしいですからね。また、各章の導入部分がありませんね。扉の下にでも、この章にはこういうことが書かれているということを書いたほうが良いですね。
- 實形委員 導入部分があるのは今は民俗だけですが、各章概観は冒頭に入ります。
- 橘田委員長 お待ちください。基本的なことでは議論していますが、自然のような形でいくのか、それとも、中扉を入れるのかですね。ページの問題はありますか。
- 事務局（浅野主幹） 中扉を含めて 300 頁くらいでお願いしたいと思います。
- 實形委員 中扉を入れると、10 頁くらい増えることになります。
- 梶山委員 2つの方法で印刷してみて比べてみたらいかがですか。
- 實形委員 扉なしでやるのが最初の計画です。
- 三浦委員 私は、自然のような形が良いと思います。
- 金子委員 見開きが良いと思います。

- 初谷教育長 新しき章も節も右側から始まるということですね。
- 金子委員 はい。最初の方針はそうでした。
- 實形委員 概説がまだそろっていないのと、自然が据わっているんで、ここで少しずれてしまいました。
- 橘田委員長 この件はいずれまたどちらが良いか検討します。
- 實形委員 自然が据わっていて、その後が違っているんで、それを解消する工夫が編集上出てきてしまったということです。それ以外は見開きの原則は崩さないほうが良いと思います。
- 事務局（本多課長） 来年になりましたら、第4回会議をお願いすると思いますので、今の問題につきまして皆様の意見が多いものでいきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。
- 實形委員 全体を見たときに、基本的には、章・節で、一つ一つのタイトルが項のようになっていますが、本文中に小見出しが入っている人と、入っていない人がいます。できれば、3つ程度の小見出しが入っていると読者は読みやすいと思ひます。書き直しのときに執筆者に入れてもらわなければいけませんので、小見出しを入れるか入れないかを今ここで決めなければいけません。
- 橘田委員長 小見出しをゴシック体で出すほうが読みやすいですね。文が続くだけでは、読んでる側は疲れてきますからね。たとえば、春・夏・秋・冬のように見出しがあれば、これは春のこと等すぐ分かりますね。そのほうが一般の市民が読みやすいですね。
- 梶山委員 近現代は小見出しが入っているんで、入れるならば参考にするべきですね。
- 橘田委員長 見る人のために、近現代や自然を参考にして小見しを入れたほうが良いですね。自然から違う方向に発展してしまいましたが、元に戻りまして、トキの話はもう一度検討するというところで、その他にお気付きの点があればどうぞ。
- 須田委員 3頁の大地の姿と成り立ちの写真、1－4（中六）ですか、これは袖ヶ浦市ですか。

藤平委員 袖ヶ浦市のはまずいですね。やはり木更津のものでないと。

橘田委員長 丘陵と谷底平野の風景は木更津にないとなると困るが、木更津にもたくさんありますね。これはどういたしますか。写真を変えますか。

事務局（浅野主幹） 差し替えをお願いしたいと思います。

橘田委員長 他にありますか。

金子委員 10頁の「市街地のほぼ中央の金の鈴博物館」とありますが、これで良いのですか。

事務局（浅野主幹） この辺りは正式名称に変えたいと思います。

鹿間委員 29頁の2段目「そのため、千葉県では1976年から～」の部分の地名「泉井」でよろしいですか。

事務局（浅野主幹） こちらは、「泉谷」の間違いです。訂正いたします。

橘田委員長 29頁の1段目をご覧ください。「それがこのように」、「この様な例」とありますが、直して頂きたいですね。「それがこのように」は無くても良いと思います。

はい、いろいろなご意見ありがとうございました。次に、原始・古代に移ります。意見があればどうぞ。

金子委員 全体的に常用漢字ではない名前等ありますよね。「<sup>くつわ</sup>轡」等、常用漢字以外の字があるので、ルビが必要だと思います。全部は大変だと思いますので、繰り返し使われている漢字には最初に出てくるところにつけるべきですね。また、ですます調のところがありますので、である調に直さなければなりませんね。あとは写真関係ですね。もう一つ、原稿の文章表現を変更した場合に執筆者に「書いたものと違う」と言われることもありますね。こだわりがある人もおられますので。出した原稿のままですと本人は嬉しいでしょうが。ある程度執筆者と話をしておかなければいけませんね。

図説ですので、平易な文章で書く配慮が必要ですね。常用漢字を用いて、簡潔に書くのが大事だと思いました。



- 橘田委員長 難しい字を用いがちですが、ルビをつけなければいけませんね。難しい言葉もなるべくわかりやすい表現にしたほうが良いですね。  
ところで、原始・古代は写真説明がありませんね。
- 事務局（浅野主幹） 説明は入れさせていただきます。少なくともタイトルは入ります。
- 梶山委員 ルビはうるさいくらい入れるべきだと思います。地名、個人名、固有名詞にも振ったほうが良いですね。
- 實形委員 事務局はふりがな一覧を作って管理しておかなければいけませんね。振り忘れが出てきますので、振り漏れがないように管理するようにお願いします。
- 橘田委員長 2度3度出る漢字には、最初だけでもきちんとルビを付けるべきですね。
- 實形委員 原則は見開きで振ることですね。次の頁に出てきたら再度振らなければいけません。あとは、漢字で表記するのか、ひらがなで表記するのかですね。
- 梶山委員 とにかく、一般の人が読むことを意識しなければいけませんね。
- 橘田委員長 他にございませんか。
- 須田委員 4小櫃川流域の覇者ー古墳時代ー・6馬来田国造の隆盛のところの2頁に「金鈴塚古墳は墳丘長90メートル」とありますが、90メートルで確定と理解してよろしいですか。公式文書なので。
- 事務局（浅野主幹） 完全に全面調査をしているわけではないのですが、現在の個人宅造に伴う試掘調査等の結果の積み重ねから妥当性のある墳丘長と言えます。
- 須田委員 わかりました。もう一つ、最後のところに「6世紀後半からのこれらの古墳の築造は～地方を治めた馬来田国造と推定される」とありますが、これでよろしいのですか。
- 梶山委員 まあ、良いと思います。
- 金子委員 反対はなかなかできないですね。

- 梶山委員 4小櫃川流域の覇者ー古墳時代ー・1古墳の造営の2頁の前方後円墳の図は良くないですね。粗すぎます。
- 須田委員 先ほどの続きですが、古代上総の玄関口ー上総国の成立と木更津ーのところで、カタカナでムラという字がありますが、どういった基準で使い分けているのですか。
- 事務局（浅野主幹） 具体的にいうと、明治時代の町村制の施行あたりから行政組織上の地域単位ということで村という漢字が使われ始めたのです。それ以前については、漢字の村を使うとそういうものをイメージしないように、例えば、弥生時代のムラをカタカナで表記することがあります。漢字の持つイメージとは違うということで、カタカナ表記がよく使われています。
- 須田委員 気になるところがありまして、縄文時代の4ムラの繁栄の中に「花山ムラが終焉を迎える頃、伊豆山台でムラづくりが始まる。その後、中期の終末まで伊豆山台ムラは繁栄し、環状集落が形成されることとなる」とあります。ここは、非常に違和感を感じます。こういうムラの使われ方ですとカタカナ表記のムラ概念がわからなくなります。
- 橘田委員長 ここは、執筆者に相談して頂くことになりませんか。確認が必要ですね。他にありますか。
- 實形委員 原始・古代はほぼ副題が付いている構成ですが、他のところはあったり、なかったりしているので、入れるかどうか検討が必要だと感じます。
- 須田委員 全部は難しいですが、ある程度は必要ですね。
- 實形委員 各章に数個ずつ入れることで気にならなくなると思います。近世は何も入れないで組んでいますね。単純過ぎるところに具体的なことを加えれば、増やすことができます。
- 橘田委員長 中身との関わりですね。読者に親切ですしね。中世はいくつか入っていますね。
- 實形委員 今は各時代で差があり過ぎるので、ないところは増やしたほうが良いと思います。無理に入れる必要はありませんが。

- 橘田委員長 副題を付けたほうが、わかりやすくインパクトがありますね。
- 藤平委員 では、古代を参考にして副題を付ける努力するということですね。
- 橘田委員長 そうしましょう。副題を付ける方向でいきましょう。  
時間も大分過ぎておりますので、中世にいきます。
- 鹿間委員 本日目次をいただいたのですが、(第1章・1節・1)、(第1章・2節・1)と続く形式でよろしいですか。中世になりますと(第1章・第1章・1節)というような形に変わっています。目次のように、章、節、1・2・3で整理されるということよろしいのですよね？
- 事務局(浅野主幹) 目次通りに整理したいと思います。
- 實形委員 章・節で、項がそれぞれ1項目のタイトルで通し番号が付くということですよ。さらに本文中に小見出しを3つ程度設けて読みやすさを図るという形で良いですよ。
- 鹿間委員 全部第1節に概説が入って全部ずれていくのですよね。
- 事務局(浅野主幹) はい。
- 須田委員 第2章鎌倉との交流・第2節金沢称名寺領について、2段目の4行目のところですが、「市域は南側の小櫃川流域が望陀郡(望東郡)、その北側が周東郡に属しており」とありますが、北と南が逆ではないですか？地図では北側の小櫃川流域で、南側が周東郡となっています。
- 梶山委員 そうですね。小櫃川流域は北です。違ってきますね。
- 橘田委員長 そうですね。では、他にありますか。
- 實形委員 掲載写真一覧があると良いですね。高倉観音と八剣八幡神社の話は近世でも書きますので、写真が重複してしまいました。調整しないといけなくなりますので、事務局で掲載許可の有無、連絡先等の一覧表の作成をお願いします。

- 梶山委員 八剱八幡神社の寛政の図は検討を要するので気をつけたほうが良いです。あの当時、現在の本殿があったはずですが、現在の本殿ではない建物が書いてあります。こういうように改造したいという図ではないかと思います。
- 橘田委員長 私もそのように思います。では、須田委員どうぞ。
- 須田委員 第4章真里谷武田氏の活躍・第2節真里谷城と武田氏の2頁の最後で「真里谷城は誰が築いたのかが、真里谷武田氏に関わる大きな問題である」とありますが、浅野さん、真里谷城は武田氏が築いたのではないという説は有力なのですか？
- 事務局（浅野主幹） 訂正することにはなっていないので、こういう意見もあるという状況だと思います。
- 須田委員 定説ではないとしたら、ここに書くのはどうなのかと思いました。
- 梶山委員 武田の中の誰が今の真里谷城を築いたかという表現だと思いますが、誰が築いたのかはわかっていないので、誤解のないよう上手く表現しないと行けませんね。
- 橘田委員長 同じ頁の享徳の乱は1544年となっていますが、1455年ですよ。間違っていますね。はい、他にどうぞ。
- 梶山委員 中世の年表で笹子が本文で取り上げ、笹子城が落ちた等書いていますが、わかっている限り誰が滅んだか、かっこ書きで入れておくと良いと思います。
- 橘田委員長 第2節中世木更津の信仰の2頁に「旦那内匠助泉重、文明十四年委六月日」とありますが、「委」が違いますね。あと、第1節里見氏の徳政下段で「らしい」が重複されていますのでどちらかを取ったほうが良いですね。  
では、近世でお気づきのところがあればどうぞ。
- 實形委員 近世の木更津船4頁の図で広重の浮世絵としていますが、こちらは北斎の絵ですね。確認が必要だと思います。
- 事務局（浅野主幹） タイトルが正しく、図が間違っています。
- 實形委員 では、重複しますので、調整が必要だと思います。

- 須田委員 第4節歌川広重と房総旅行の「旅行」という言葉遣いは正しいですか。房総の旅としたほうが良いと思います。
- 橘田委員長 はい、そうですね。他にどうぞ。
- 藤平委員 江戸時代は、木更津は商業が発展したのではないかと疑問を持っています。
- 初谷教育長 商業と通運業ですよ。
- 貫形委員 木更津船、木更津船とおっしゃっていますが、具体的な史料がないですね。帳簿類があると具体的なことがわかってきますが。
- 鹿間委員 確認なのですが、第2章村々の生活・第2節木更津船と江戸の木更津河岸で見開き4頁になっておりますが、これでもよろしいですか。
- 貫形委員 2頁で収まらなかったため、増やしました。偶数頁増やせば問題はないです。
- 橘田委員長 第4章江戸幕府の終焉4頁の図1-6の説明は、図の上にあるほうが良いと思いますね。
- 三浦委員 林さんの話ですが、全般の林家の系譜、真武根陣屋等ときて、請西藩と戊辰戦争ときますよね。話としてはまとまっていますが、戊辰戦争の話でも出てきますよね。重複していますが、皆様どうしているのですかね。
- 近現代の最初の戊辰戦争と木更津の5頁の上の段の「海を渡って箱根などを転戦し、敗れて東北地方に至り、十月になって降伏。藩は廃藩、自身は禁固となるが、後に許されて、名誉回復がはかられた」という部分は前に出ているわけです。筑紫さんの執筆ですが、構成がどうなのかと思いました。
- 橘田委員長 同じ事が重なってますからね。
- 初谷教育長 前の請西藩の執筆と、明治になってからの戊辰戦争の執筆者は違うのですか？
- 貫形委員 違います。高橋さんが請西藩の話を書いて、筑紫さんが戊辰戦争の話を書いています。

- 梶山先生 事務局が伝えて調整したほうが良いです。
- 實形委員 林忠崇さんの話は抜いてはいけませんね。4頁を読むと、まずは大名になるという成功した話があり、そして戊辰戦争で奮闘したとなっており、ここで請西藩が完結しています。このあたりをゆるめて、重なっている部分を抜いてもらうのが良いと思います。
- 橘田委員長 近世の請西藩林氏と真武根陣屋の4頁と近現代の戊辰戦争と木更津は、内容が重なっているので、前に持って行って整理したほうが良いと思います。
- 三浦委員 なぜそうなったかという、戊辰戦争を近代の最初に持ってきたいわけです。全体構想なので、動かさないと。
- 實形委員 移行期なので抜くことはできませんが、重なっているところを執筆者間で上手く調整していただくしかないですね。
- 三浦委員 執筆者からすると、木更津が危機に陥った戊辰戦争で、包囲されたが危うく助かるというドラマのようなところがあるのです。森本家文書がありまして、木更津村の包囲と総攻撃ですね、そこから近代ということで私も賛成です。全体としては動かしたくありません。
- 實形委員 戊辰戦争は近現代の最初のところで良いと思いますので、林忠崇の記述を執筆者間で上手く分けて頂きたいですね。
- 三浦委員 そうですね。第3章地域文化の開花・第1節寺子屋教育から郷学至徳堂へというところでは、今までの研究論文を読んで一生懸命書いてありますが、寺子屋のことがあまり触れられていないですね。
- 實形委員 ここでは至徳堂のことしか書いていません。寺子屋のことは川崎さんの2頁が入ります。ですから、教育の問題は4頁構成なのです。これから原稿が出てきます。今は抜けている状態です。
- 橘田委員長 そうなりますと、寺子屋教育から郷学至徳堂への「から」の部分が気になりますね。「と」が良いのではないですか。寺子屋の延長に至徳堂があったわけではありませんから。

實形委員 寺子屋自体がベースにはあります。イメージとしましては、寺子屋は初等教育ですよ。至徳堂に来ている人達はすでに終わっていて、1ランク上のことをしていたのです。地域の文化の担い手になるような人達が集まり、江戸から先生を招いていました。

三浦委員 下の段の「学習過程に「坐次・応対・講説・議論・質問・詩文・飲酒」といった様々な学習法があったことが知られる」とありますが、坐次というのは座り順、座る場所の指定のことです。学習過程ではないです。

至徳堂では、定期的に読み合わせや、漢詩文を作るといったことをしていました。寺子屋を卒業した人も呼んで教えることもしてまして、自分たちの学習の場であり、塾でもありました。中心となっているのは、片山兼山先生です。

2頁の最後に「鈴木元朋と時田祐らが「先聖」にあたる片山兼山が自ら記した『孝経』を松下葵岡より貰い受け」とあります。片山兼山が自ら記したというのは違うと思います。自ら記したのではなく、手沢本です。

橘田委員長 書き込みがあるかもしれないですね。

三浦委員 兼山先生が直接使っていたので、書き込みもあるかもしれないです。このような本が非常に貴重な物です。この手沢本を、弟子である松下葵岡が先生からもらい、持っていました。そして、それを地元の至徳堂にあげたのです。後に本は埋められたのですが、兼山先生の手沢本が埋めてある所ですという看板が立てられ、今も残っています。

橘田委員長 では、「片山兼山が自ら記した」をどう変えますか。

三浦委員 「片山兼山が使用した」が良いですね。

橘田委員長 はい、そのように変えましょう。次、どうぞ。

鹿間委員 同じところで中段に「領主である旗本松浦氏からは租税の一部の免除」とありますが、平戸藩主と入れたほうが良いのではないですか。

實形委員 平戸藩主とは違います。旗本の松浦氏なのです。関東に領地を持てるわけがありません。至徳堂を建てた土地が旗本松浦氏の知行の場所なので許可は旗本松浦にとらなければいけません。現物はすべて松浦に提出しているので、写ししか残っていないのです。

橘田委員長                    はい、他にありますか。

實形委員                    写真が、文書ばかりだと色がないので良くないですかね。

橘田委員長                    市民は文書には親しみがないですね。はい、そろそろ近現代に移ります。

野中委員                    すみません。早く帰宅しなければならないので、先に民俗をお願いします。

橘田委員長                    そうですか。すみません、どうぞ。

野中委員                    民俗ということではりきっていましたが、実は私、転んでしまって大腿骨を骨折をしてしまい、長期入院の間仕事ができなくなりました。いろいろ問題が出て委員長も困ったかと思えます。私は生産・生業・衣食住を担当してたのですが、自分の責任を果たさなくてはいけないと思い、写真を撮るといふことで、事務局をお願いして撮ることができました。本日割り付けも持って来ました。そのような段階で、進行状況はいろいろと問題がありまして、仕事が忙しくて執筆ができない方もいましたが、委員も一生懸命やってくれました。経緯はよくわかりませんが、事務局が全て引き受けてくれました。ということで、非常に申し訳ございませんが、やることはやりましたので、お許し願いたいと思います。あとのご指摘は事務局で引き受けてくれると思いますのでよろしくお願ひしたいと思います。

橘田委員長                    遅くまでご苦勞様でございました。大変でございます。民俗はそういう事情がございますので、事務局がいろいろご意見を承るといふことです。

橘田委員長                    それでは、先生、お気をつけてお帰りください。

野中委員                    失礼いたします。(野中委員退席)

橘田委員長                    民俗はそういうことでございまして、近現代に入ってまいります。何かありましたらどうぞ。

三浦委員                    手直しをしようとしている部分はあります。だぶっていたところですね。

事務局(浅野主幹)            加納構想ですかね。





うぞ。民俗はどうしますか。

事務局（浅野主幹） お話だけ聞かせて頂きたいと思います。後ほど執筆者の方にお話いたします。

橘田委員長 わかりました。では、民俗を見て下さい。

三浦委員 タイトルですが、生産生業だとか、衣・食・住となっていますが、こういう見出しはこれまでにはないですね。民俗ではしょうがないのですかね。

橘田委員長 浅野さん、もっと柔らかい表現にできないですか？

事務局（浅野主幹） 一般的にはこういうものが多いです。

實形委員 具体的な副題を組み込むとより良くなると思います。

鹿間委員 第4節の流通と交易の上の段でムコウジ（三浦半島）とありますよね。その斜め下にムコウジ（向かい地）とありますが、調整したほうが良いと思います。上の段に、三浦半島の六浦（金沢）ともあるので3点調整が必要だと思います。

實形委員 同じムコウジでも第1節生産生業のところだと「向地（東京方面）」となっています。また、渡海船のふりがなが（とけいぶね）、（と一け一）と違います。

金子委員 中段ですが、「久留里線も開通し、新たな流通・交易史がいうどられることになった」とあります。「いろどられる」ですね。

橘田委員長 商業の場合のムコウジは江戸が中心ですね。流通と交易でも似たようなものですかね。

藤平委員 木更津の人にとってはムコウジが東京だったのかも知れないですね。

橘田委員長 私の造船所もそうだと思いますが、対岸はすべてムコウジでした。他にどうぞ。

金子委員 第4章2節で證誠寺のためき囃の冒頭に「證誠寺は市内富士見にある浄土宗本願寺の寺で」とありますが、「浄土真宗西本願寺派の寺」ですよ。

藤平委員 そうだと思います。

須田委員 第4節語りと伝承に「デーデーボッチャ」の話が出て来ますが、この言い方は一般的に木更津ではデデッポというのですよね。

橘田委員長 地方によってはいろいろな呼び方がありますね。事務局、こちらはどうしますか。

事務局（浅野主幹） 調べてみます。

須田委員 それから中段に「井尻には景清の井戸と呼ばれる井戸があり、景清が住んだ」とありますが、「井尻には景清の井戸と呼ばれる井戸があり、平の景清が住んだ」としたほうが良いと思います。

橘田委員長 古代ですが、馬来田に万葉集が残されていますが、市史に登場していないですね。先日、市議会議員から市史に万葉集のことはどう書かれているかという質問がありました。偉大な万葉集のことなので、私は取り上げたほうが良いと思いますが、皆様どう思いますか。

金子委員 入れたほうが良いですかね。

藤平委員 うまくたは一般的には、まくただと思いますけどね。

橘田委員長 地域住民は歴史遺産とともに町起こし等を考えていらっしゃるようです。

須田委員 見開き2頁で書くのですか。

橘田委員長 コラムやトピックスのように取り上げるのが良いかと思います。

金子委員 少し取り上げるのは良いですね。  
話変わりますが、第1章暮らしと生業・第3節人生儀礼の最後に「次に、出産にかかわることわざ」とありますが、「妊婦は家事の現場を見ていけない」はことわざと言いますかね。引っかけります。迷信のようなものですからね。

橘田委員長 金子さんはどういう言葉が良いと思いますか。

金子委員 常識的な言葉では迷信になると思いますが、気の毒なので、いわれぐらいが穏やかですかね。

橘田委員長 いわれてきたと言え、いわれですね。

事務局（浅野主幹） 執筆者の方と、こういうお話が出たので良い言葉がないかと相談してみます。

金子委員 前回よりだいぶ整理されていますね。大変でした。

橘田委員長 さて、どのようなものが出来上がるか頭の中で整理できましたか。時間になりました。遅くまでご苦労様でした。事務局が次の編集会議までに修正しなければいけませんね。本というものは、何回も読んで注意しても、ミスばかり出て来ます。また皆様方、一行一句読んで、事務局に連絡したり、持って行ったりしなくてはいけませんね。今日指摘されていないところにも字の間違い等たくさんありますよね。正月休みに入りますが、じっくり読んで頂いてご検討頂きたいと思います。

鹿間委員 少しよろしいですか。確認ですが、まだ抜けている部分、節として入っていない部分、事務局が作る冒頭部分がありますが、最終的にはどうなるのですか。小見出しと目次にずれがありますが、そういったチェックはどうするのですか。

事務局（本多課長） 今言われました事務局分、出していない分につきましては、次に考えています。2月の終わりか3月の会議で、もう一度皆様に示したいと思っています。その前に再度新しい頁をふり、指摘された箇所を訂正した原稿集を送らせて頂きたいと思います。事務局分につきましては、浅野さんにやって頂いてまして、来月半ばには全部出来上がる予定です。出来上がり次第、随時送らせて頂きたいと思いますので、御理解をお願いしたいと思います。出していない分は、他の先生にお願いしてしている分もありますので、大変申し訳ないですが、来年に会議を行いたいと思います。よろしくお願いたします。

橘田委員長 浅野さん、今課長から話がありましたが、おおまかな計画はどうなっておりますか。

事務局（浅野主幹） 細かなスケジュールはありませんが、今回と同じように事前に見て頂き、2月の末か3月の初めぐらいに会議をもう一回開かせて頂きます。

橘田委員長 印刷及び発注はいつになりますか。

事務局（浅野主幹） 来年度の話になります。4月早々に入札で印刷会社を決定したいと思いません。その前に何頁になるか、どんな紙を使うか、原稿の量等の内容を示さなくてはなりません。3月中までになんらかの形になったものを、ということ考えております。4月なってすぐに契約の算段に入ります。実際に契約が決まるのは4月の末あたりになると思います。その頃には、3月までにお持ち頂いている写真・原稿を渡して、印刷に取りかかっていきます。そして、順次初稿が出て来ます。すぐに全部は出て来ませんので、ある程度ばらばらとブロック別に出て来ると思います。その時点で、もう一度執筆者に返して誤字脱字等確認し、校正をして頂いて、10月半ば頃には刷り上るという大きな計画を持っております。

橘田委員長 表紙は話題になりませんか。市民が喜ぶ表紙をね。それから、会議を始める前に、縄文・弥生の絵を字の背面にという話がありましたが、どうなっていますか。

事務局（浅野主幹） まだそこまでいっておりません。下絵は必要なので、このようなものでこれを書いて頂きたいという原稿を頂かないと頼めない状況です。

橘田委員長 お願いするなら早く頼まなくてはなりませんね。

鹿間委員 確認ですが、4月早々入札ということで、納期の予定はどのくらいですか。

事務局（浅野主幹） 10月の半ばくらいです。

鹿間委員 そうしますと原稿云々が今年度である程度整理されると思いますが、来年度も委員の皆様、例えば、初稿を委員の皆様にご覧して頂くということはあるのですか？

事務局（浅野主幹） 頻繁にはないと思いますが、出てくるかもしれません。

橘田委員長

他にありますか。

遅くまで本当にご苦労様でございました。以上を持ちまして会議を閉じさせていただきます。

事務局（本多課長）

大変遅くまでありがとうございました。

事務局（浅野主幹）

以上で第3回市史編集委員会を終了いたします。お疲れさまでございました。

平成23年12月21日

議事録署名人 木更津市史編集委員会

委員長 橘田 昭雄